

油彩画の透明技法

透明技法を駆使したファン・エイクの名画

ファン・エイク、デューラー、クラナッハ、ブリュゲル、レオナルド・ダ・ヴィンチなど、ルネッサンスからバロック期にかけて活躍した画家の油彩画は、今も奥行きと透明感のある画面で人を魅了してやみません。一体どんな方法で描いたのでしょうか。

彼らは油絵具を樹脂性のワニスで溶き、薄い透明な絵具層を何層も塗り重ねながら作品を仕上げました。この技法は透明技法（グレイズ技法、グラッシ）と呼ばれ、中でもこの技法を駆使して多くの名画を残した、ファン・エイクの作品が有名です。

透明技法に適した画用液

透明技法で注意しなければならないのは、画用液の選択です。何層も透明な層を重ねるため、乾きの遅い乾性油では不便です。揮発性油は発色と固着を損なうため使えません。ファン・エイクらが使ったのと同じ、樹脂をベースにした、速乾性の画用液が適しています。以下に、透明技法に用いる代表的な画用液を紹介します。

■バンドル、オドレス、バンドル（無臭タイプ）

本来はつや出し用の樹脂性ワニスですが、乾燥が速く、上に塗る絵具の固着もよいため、透明技法用のワニスとして最適です。

■クイックドライング、メディウム

名の通り速乾性を目的とした調合溶き油です。油つばにそのまま入れて使えるので便利です。濃すぎる場合は揮発性油で薄めても構いません。

■ペンチング、メディウム、ゼリー

チューブ入りなので、絵具と同じようにパレットで混ぜられます。粘度があるので厚塗りの透明技法や、筆のタッチを活かす場合に用います。

■ストロング、メディウム、グロス

ペンチング、メディウム、ゼリーよりもさらにコシがあり、ナイフのタツ

ちや筆のタッチをよりシャープに出せます。

■スペシャルペンチング、オイル、スペシャルソルバ

いずれもワニスに富む調合溶き油なので、透明技法に合っています。

透明技法の原理

光がますます通過する物体は透明に見えますが、表面で光を反射したり、物体の内部で光が曲がる角度が大きいと透明度は下がります。テンペラやガッシュで描かれた画面は、顔料がすき間なく表面をおおうため光が反射され不透明に見えます。大量のワニスを混ぜて描かれた油彩画は、光が顔料のすき間を通過して絵具層の奥まで届いて反射するため、透明感とともに色調に深みのある画面になります。透明技法はこの原理を効果的に使った技法です。また、油絵具は成分である油の屈折率自体が透明性に寄与しているため、透明技法に最も適した絵具と言えましょう。

図は透明技法の原理を説明したものです。光は2層目に塗った薄い青色の絵具層を透過して下の黄色の層に達し、跳ね返って人間の眼に飛び込むため、透明感のある深い緑色を感じさせます。同じ原理で、「パミリオ」(黄みの赤)の上に「クリムソンレーキ」(青みの赤)の透明な層を重ねると、深みのある赤が表現できます。上に塗る絵具は透明度の高いものが基本で、赤ならクリムソンやローズマダー、黄ならオーレオリオン、緑ならピリジャンなどが透明色です。ホルベイン油絵具では、特にグレイズ向きの「透明カラー」も11色がそろっています。透明技法を試みるときは、絵具を画用液で薄めるというより、色付きの画用液をつくるイメージで絵具を溶き、柔らかい筆で薄く塗り重ねます。全体に色をつきたいときは、柔らかい布などで刷り込んでいきます。

透明技法の原理

薄い青色の絵具層

重なったところは深い緑色に見えます。

ワニス(透明)

キャンバスに塗った黄色の絵具層



バンドル

※参考文献:「絵具の科学」ホルベイン工業技術部編(中央公論美術出版)など



ホルベイン絵具

www.holbein-works.co.jp

ホルベイン絵具に関する
ご質問・ご相談は…

ホルベイン絵具 技術サービスセンター TEL.0729 (85) 1223
〒579-8063 東大阪市横小路町4-10-52
電話受付時間/9:00~16:00 月~金曜日(祝日を除く)

ホルベイン工業株式会社 東京都豊島区東池袋2-18-4 TEL.03(3983)9251 大阪府東大阪市上小阪1-3-20 TEL.06(6723)1554